

第6次草津市総合計画第2期基本計画の策定に係るタウンミーティング 意見と回答

No.	意見の要旨	回答
1	<p>リーディング・プロジェクト「DX推進プロジェクト」について、草津市では既にDX戦略担当の人員が組織されていると思うが、この新たなリーディング・プロジェクトは、現在の取組を終了して新規にプロジェクトを立ち上げるのか、それとも現在実施している戦略に対して拡充・拡大を行うものなのか。</p>	<p>DXの推進については、まずは行政サービスの向上を図るための行政事務の効率化、また、従来の施策をDXによって更に効果的に皆様に享受していただくための推進を図るのが第1の目的である。また、Society5.0やスマートシティといった社会全体の動きを促進していかなければならない社会情勢であり、それらを視野に入れながら日々の取組をしていかなければならないと考えている。DX推進プロジェクトは第2期基本計画で新たにリーディング・プロジェクトとして掲げたものであるが、全ての分野にわたってDXを推進していくための先導、あるいは下支えの役割を果たすものであり、現在実施しているDX推進を更に拡充・拡大し、動きを促進するプロジェクトとなる。</p>
2	<p>「7. 地域福祉」の分野について、市は一番身近な行政機関である。支援を必要とされる方々へ情報や支援が届かず、暮らしが困難になるケースがある。そういったところへ情報・支援を届ける、また、情報・支援が届いてないのはなぜかを細かく見ていただくような仕組み・動きを考えていただけるとありがたい。</p>	<p>SDGsの理念にある「誰一人取り残さない」社会を作っていくことは、総合計画の目標でもある。子どもから高齢者まで安心して暮らせるよう、「望まない孤独」「社会的孤立」が増えている状況も捉えて、行政としても相談体制を含め充実させていく必要があるし、また、地域の中でもお互いに支え合い助け合うような意識の醸成を図る取組も必要であると考えており、進めてまいりたい。</p>
3	<p>「12. 防災」の分野について、特に地震と水害については様々な対策を実施していると思うが、今後予想される危機として、太陽フレアや火山灰によって電力ネットワークに支障を来したり、情報機器が使えなくなったりする事態が出てくると考えられるため、これらの備えについても考えていただけるとありがたい。例えば地域の中で井戸がある家を把握されていると思うが、現在は、手動ではなく電気により汲み上げている。手汲みポンプがあれば電気が使えない中でも水の確保ができる。市のタンクだけでは難しいケースもあり、そのような取組をやっていただいてはと考えた。</p>	<p>太陽フレアの影響への備えについては、市だけでの対応は困難な面があり、国として対応を打ち出していただく必要があるので、国への要望活動も併せて実施していく必要がある。</p> <p>水は非常時の必需品であり、市の備蓄や浄水場の耐震化、管路の耐震化も進めている。いざという時には協定を締結した自治体や企業から水の供給を受けられるよう連携も進めている。個人宅の井戸については水質の問題で利用は難しいが、企業が保有する井戸から水を提供いただけるよう協定は結んでいる。</p>

第6次草津市総合計画第2期基本計画の策定に係るタウンミーティング 意見と回答

No.	意見の要旨	回答
4	<p>「18. 農林水産」の分野について、今後の食料困難、食料自給率等を考えるうえで、休耕地や耕作放棄地について、1人でも多くの方が個人として農に親しむ環境や支援が検討されるとみんなが安心な暮らしに繋がるのではないかと思う。生業としての農も大事だとは思いますが、半農半Xや市民農園のような色々な形で取り組みやすいものも視野に入れて今後の施策に生かしていただけると嬉しい。</p>	<p>耕作放棄地は草津市でも出てきている。大規模農業以外の、小規模な農地の活用について御提案をいただいたが、小さい面積でも農地の活用・取引ができるよう国の規定も変わった。これらを踏まえて今後の活用を検討したい。市内各地に市民農園も出来ており、それらにより農業や土、作物に親しんでもらうような展開も更に進めていきたい。各学校でも田んぼの子などの事業が行われており、そのような子どもの時から田んぼや畑など農に関心を持ち親しんでもらえるような取組を進めていきたい。</p>
5	<p>リーディング・プロジェクト「にぎわい・再生プロジェクト」の中の、ウォークアブルな都市と公共交通ネットワークの形成について、これまで草津市は比較的アクセス性の高いエリアへ居住誘導や都市機能の誘導を行ってきたと思われるが、今後は、公共交通網の整備やサービス水準の改善だけではなく、公共交通によって生活を送るというライフスタイルにシフトにしてもらうための市民の意識変容が重要になると考えている。</p> <p>これは行政や市民が単体では達成できるようなものではなく、例えば私は今日、老上学区の方を対象に公共交通型ライフスタイルを実体験するまち歩きの企画を開催する。そのように行政と市民が協力して意識変容を図っていくことが重要であると思うが、公共交通型ライフスタイルの推進や意識変容についてどのようにお考えかをお聞きしたい。</p>	<p>行政として公共交通網を市内に張り巡らすことは必要であり、路線バスがないところには、コミュニティバス「まめバス」やデマンド型乗合タクシー「まめタク」の運行により不便地の解消を図っている。利用促進に関しては、どの場所に停留所を置くのが良いか、どういった路線が利用しやすいかなどを地域の皆様と協議したうえで路線の決定、改善を行っており、地域の皆様とともに、まめバス・まめタクを利用する意識付けを行っている。地域の中で、まめバス・まめタクに乗ろうという運動をしている地域もある。また、まめバス・まめタクがあまり利用されない状況になれば運行をやめるという逆の意識付けも行っている。</p> <p>草津市だけでなく滋賀県は、車を利用する方が多い地域であるので、普段から路線バスをもっと利用しようという運動も必要である。CO<sub>2</sub>削減効果もあり、その面からも、できるだけ公共交通を利用するという意識付けを行うことには重要であり、おっしゃっていただいたような実体験をしてもらうことは効果的だとお聞きして思った。そういったことも取り入れながら、具体的な意識啓発を行ってまいりたい。</p>

第6次草津市総合計画第2期基本計画の策定に係るタウンミーティング 意見と回答

No.	意見の要旨	回答
6	<p>公共交通を使うとなると、停留所や駅まで歩きにくいところがあるなど、不便な点や改善した方が良い点があると感じる方が多いと思う。実体験の中で感じられる不便や危険をひとつひとつ拾って改善し、公共交通をより使いやすいものとしてほしい。また、まめバスに結節点を作ることで、従来のバス会社の運行経路につながり、駅までもっと早く行けるなど連携した使い方が出来ると思う。こういう使い方が便利であるという案内もいただくことで更に公共交通が充実するのではないか。</p>	<p>まめバス・まめタクについては、地域の皆様と路線や停留所について協議・検討した上で設定をさせていただいている。路線や停留所も固定するのではなく、移動や変更など、更に御意見をいただいて改善をしながら運行している状況であるので、今後もそのような取組を続けていきたい。ただ、路線バスも運転手不足や労働時間規制により運行が厳しい状況で、まめバスにも影響があり、バス路線の縮小や減便という大きな問題もある。国でも問題は認識されているが、公共交通のための運転手の確保策について、更に国へ要望を行ってまいりたい。</p>
7	<p>「19.商工観光」の観光について、滋賀県では健康づくりと滋賀県の良さを知ってもらう取組として、自転車で琵琶湖を一周するピワイチをやっている。草津市でも駅前の施設整備を行い、サイクリングに適した自転車を借りられ、シャワーを浴びられ、荷物を預けられるなど、近くのホテル等と連携してできれば、草津市がピワイチの一つの出発点になると思う。そのような点についても検討いただければと思う。</p>	<p>今、滋賀県は単に琵琶湖を一周するだけではなく、内陸も入れて「ピワイチ・プラス」として促進を図っている。草津市においても旧草津川の自転車道の活用を薦めている。草津駅前のホテル等では民間により既にレンタサイクルを実施されており、利用も増えていると聞いている。一方で、南草津駅は、大学や企業が立地しており、レンタサイクルの需要が幅広いことから、民間事業者等と連携し、需要に即したレンタサイクルの導入に向けた検討を進めていきたい。</p>
8	<p>「9.子ども・子育て・若者」の分野で、子育てに関して、家庭の相談や支援の充実を図るとのことであるが、これから先、若い親世代が増えていくとSNSの活用が視野に入ってくると思うが、親子の交流に関して具体的にどのようなものをこれから充実させていくのかをお聞きしたい。</p>	<p>子育て相談については、市役所の中に相談室(子育て相談センター)があり、草津駅・南草津駅前に子育て支援拠点施設がある。そこでは、子どもが遊ぶことができ、また、相談もできる。他にもそのような子育て相談の場所はいくつかある。</p> <p>提案いただいたSNSの活用について、子育てに関する発信は、市のホームページのほかSNSも使って発信しているものの、SNSでの相談はまだできていないため、今後検討する必要がある。他に相談体制の充実として、市では0歳児の家庭に2回、保育士や保健師などがそれぞれ訪問し相談を受けているが、これに関して相談の機会を増やすなど更なる取組も検討している。</p>